

《審議会報告・概要版》

総合計画審議会 第4回 第2部会

平成18年8月10日(木)午後1時30分
市役所本館6階 第3委員会室

1 開会 (会長)

2 部会長会議(素案修正案)報告

- 資料1に基づき、第2回・3回意見に対する事務局対応案を説明した。
- 資料2・3に基づき、部会調整案について説明した。

(説明者：松田計画調整課長)

3 施策別プラン

都市像 「大地と共に育つ、田園型拠点都市」について

- 幹事による説明の後、審議を行った。(主な意見は以下のとおり)

4 その他

- 次回(第5回)の予定について確認した。

審議内容 基本計画各論

施策別プラン 都市像 「世界と共に育つ、日本海交流都市」

日時 平成18年8月21日 午後1時30分から

会場 本館6階第3委員会室

以上。

終了：正午

(主な意見) 各部会での意見は別添意見一覧を参照ください。

都市像 「大地と共に育つ，田園型拠点都市」

1 田園型政令市にふさわしいまちの姿

- ・ 現状と課題 については，施策につながるような書き込みを。また，表現についての統一を。「～だから，～が必要である。」
- ・ 1つめ：広域合併により，市域が広がっただけではなく，人口も増えた記載が必要である。
- ・ 7つめ：公園面積だけ数値が入っているのは唐突で，統一したほうがよい。

(1) 都市化社会から都市型社会へ

- ・「都市化社会から都市型社会へ」は，市民にはわからない。

市街地拡大のコントロール

- ・無秩序な都市の形成は正さなければならないが，“市街地拡大のコントロール”は理解できない。

(2) 田園の保全と自然に配慮した整備

- ・定年帰農システムの整備を入れて欲しい。
- ・“自然環境の保全を優先し，...”などの文言を入れて欲しい。
- ・「田園」の定義をはっきりさせたい。美田なのか，都市と対比しての総称としての“田園”なのか。

農業団体等の施設維持活動への支援

- ・“除草剤を使わない～”とP82 “化学肥料の使用量を低減した～”では，整合性が取れていない。

(3) 豊かな水と共生するまちづくり

湿地の保全と活用

- ・P75(4)にもあるが，“自然共生空間”の表現がわからない。
- 自然での共生は競争の中でのもの。

(4) 豊かな自然の保全と育成

- ・自然とは“緑”“水辺”“大地”が基本である。この分類で表記したらどうか。

里山の保全・活用

- ・里山の構成要素は，森林だけではなく，生物的多様性を非常に含んでいることから，この生物的多様性を保全するという考え方をした方がよい。また，里山は，市民共有の財産であるということは分かるが，所有者は個人のものもあることから，保全・活用の際にはこれを整理しておかなければならない。

野生生物の保護・管理

- ・管理の部分にもっと踏み込んで，マネジメントの考えを入れてはどうか。

2 都市と田園が恵みあう関係

- ・ 3つめ：農業生産の数値が周知されていないのではなく，米以外の農産物が知られていないのではないか。
- ・ 4つめ：“農業に関する関心が低下することで，食習慣の乱れが助長されています。”は，言い過ぎではないか。

- ・ 4 つめ：農業に関する関心を高めるために、また、人材育成のためにも小学校からの農業教育が必要であると思うがどこかに記載するか。本市には、農業高校がない。

3 田園型政令市を際立たせる食と花

(2) 安心・安全・おいしい農産物

環境保全型農業の推進

- ・ 有機農業や環境保全型農業を進めていくためには、上越市のように目標値を定めてはどうか。

(3) 収益性の高い農業の確立

- ・ 後継者問題や人材育成のために、農業教育のほかに、いかにして経済的に農業収益を上げられるかが問題となる。収益性が上がれば魅力も増す。

小規模農家の収益性を上げるためには、観光農園や直売所の視点が必要。

意欲ある担い手の育成

- ・ 担い手の育成として、専業農家、兼業農家どちらに重点を置いて育成するのか、方針はあるのか。

新規就農者の確保・多様な就農の推進

- ・ 農家と農業に興味のある企業・個人を繋ぐ仕組みづくりが必要。
農業をやりたいと考えている人がどこへ相談してよいかわからない。

(4) 農業の新たな可能性を拓く

- ・ 川上・川下のコラボが必要である。

農産物の輸出の促進

- ・ 農産物の輸出については、世界の潮流を認識した上で、相手国の理解を得られることが大事である。

4 市民と築く環境先進都市

(1) 地球環境に貢献する

国際協調の推進

- ・ 技術協力も進んでいることから、“国際協調”ではなく“国際協力”ではないか。

(3) 廃棄物の減量・リサイクルの推進

- ・ ごみの分別が 6 から 12 になるなか、未来を担う若者、特に大学生に分別をしないなどの不法投棄が問題となっている。

(4) 資源循環都市づくり

- ・ 雨水や浄化処理水などの水のリサイクルの記載が必要である。

静脈産業の育成

- ・ 東港や西港周辺において、工業地域ということで、リサイクル施設や産業廃棄物処理という名目の施設が立地しているが、都市計画と環境の両部門でもう少しちゃんと考えておいてもらいたい。